

# ド・ボスコの風

Joyful Communication !

SALESIAN  
BULLETIN  
JAPAN

July 2013

No.

11

特集



人のために  
喜んで  
生き、働く

Ciao! サレジオ家族探訪

都城聖ドミニコ学園高等学校  
日向学院中学校・高等学校

時を超えて紡ぐショートストーリー  
「森の奥で君を待つ」

サレジアンとのルーツと出会う旅  
サレジオ学院中学校イタリア研修旅行





# ドン・ボスコの生き方になろう

～2015.8.16 ドン・ボスコ生誕200周年に備える～

サレジオ会日本管区長  
アルド・チブリアニ神父

Message  
サレジオ家族の皆様へ



1 846年7月、ドン・ボスコは過労で倒れ、危篤<sup>きとく</sup>に陥りました。少年たちは愛する父ドン・ボスコの回復を願い、「代わりに自分の命をささげます」と祈り求めました。神はその祈りに応え、数週間後、奇跡的に回復したドン・ボスコは言いました。「私の命は君たちのものだ。約束する。これから先、私の命すべてを君たちのために使おう。」

生涯の終わりにドン・ボスコは言います。「私の少年たちに伝えてください。私は天国で君たちを待っている。」

このようにすべてを与え尽くすドン・ボスコの生き方を支えたのは、何だったのでしょうか。それは、ドン・ボスコ自身が体験した神の愛でした。

人が神を信じ、神に結ばれる生き方を「<sup>れいせい</sup>霊性」と言います。さまざまな霊性がありますが、すべての霊性の中核には神の愛があります。ドン・ボスコの場合、その愛は無償の「<sup>ぼくし</sup>牧者の愛」でした。

イエス・キリストは「良い牧者」と言われます。中東やヨーロッパなど牧畜の伝統のある国の人にとってはピンとくる表現です。羊飼いは羊の命を養うため、豊かな牧場、きれいな水の流れへ導き、夜は眠らずに見守り、迷う羊は探し出して連れ帰り、危険が迫ると命を投げ出して羊を守ります。「良い牧者」はすべての人の幸せを願う神の心を表しているのです。

神はこの「牧者の愛」をドン・ボスコの心に豊かに注がれました。この愛はドン・ボスコのモットー「Da mihi animas caetera tolle 私に魂を与え、ほかは取り去ってください（子どもたちが救われるなら、ほかは何もいりません）」に表されています。一生涯、貧しく見すてられた若者たちに愛なる神の姿を示すために働き尽くしたドン・ボスコを支えたのは、神の愛でした。

来る2015年のドン・ボスコ生誕200周年準備の最後の1年、ドン・ボスコの霊性に深く根をおろし、神さまの豊かな愛を汲み、私たちも小さなドン・ボスコとなって、苦しむ人、導きを必要とする若者に希望のメッセージを運び、共に力強く歩めますように。

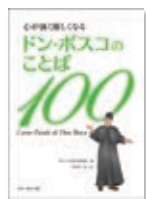
2013年6月24日

ドン・ボスコの霊名の祭日に

DVD「ドン・ボスコ」より  
©RAI FICTION, LUX VIDE, D&B PRODUCTION

「ドン・ボスコを知る」ために――

おすすめの本・DVD



心が強く優しくなる  
ドン・ボスコのことば100

サレジオ会日本管区 編  
浦田慎二郎 監修  
文庫判並製 205頁 ¥525

子どもたちの「魂」を愛育てたドン・ボスコ。彼のことばには、寄り添い、人を笑顔にし、導いてくれる力がある。



DVD  
ドン・ボスコ

ロドヴィコ・ガスノリーニ監督  
日本語吹替版 200分 ¥1,000

愛と信頼、強い心で少年たちを育んだ真の教育者の姿が美しい映像でよみがえる。イタリア国営放送の感動の作品。

## Contents もくじ

3 Message ●ドン・ボスコの生き方になろう

4 ドン・ボスコゆかりの地を巡る ●トリノ ドン・ボスコの部屋

6 Essay ●「いつも喜びをもって生きる」ドン・ボスコの霊性

8 特集 ●

## 人のために喜んで生き、働く

志岐明奈さん from 都城聖ドミニコ学園高等学校

三原武博さん from 日向学院高等学校

今井一輝くん from 目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小学校



14 News ●サレジアン<sup>サレジアン</sup>のルーツと出会う旅  
サレジオ学院中学校イタリア研修旅行



16 世界のサレジオ家族ニュース

20 時を超えて紡ぐショートストーリー ●森の奥で君を待つ

文：ノゾエ 征爾 絵：おむら まりこ



22 Ciao! サレジオ家族探訪 ●都城聖ドミニコ学園高等学校  
日向学院中学校・高等学校

26 サレジアンの旬な一言 ●言っときますけど…

27 サレジアン小伝 ●ありがとう! 秋元神父

いつも喜んで人びとのために働いた司祭

28 Info ●ドン・ボスコ生誕200周年 記念イベント・コンテストのお知らせ  
ドン・ボスコの仲間とフェイスブックでつながろう! ほか

31 読者プレゼント

「ドン・ボスコの風」について ―― 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。ドン・ボスコの精神を多くの方々と共有し、新しいつながりに広げていくきっかけとしてご活用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。

Joyful Communication !

# ドン・ボスコの風

SALESIAN BULLETIN JAPAN No. 11

July 2013



表紙の写真

都城聖ドミニコ学園高等学校の生徒と先生たち。元気いっぱいの明るさが印象的です。



ドン・ボスコとは?

「青少年の友」と呼ばれ、見すてられた若者たちのために生涯を献げた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ家族とは?

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、29団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジオンファミリーとも呼ばれる。





イタリア・トリノにあるドン・ボスコの家。  
右側の建物の3階にドン・ボスコの部屋があった



1859年12月18日、サレジオ会創立の文書



1880年頃のオラトリオの製本所



ドン・ボスコのモットー、「私に魂を与え、そのほかは取り去りたまえ」



ドン・ボスコの部屋。ここに17名が集まり、サレジオ会が公式に誕生した



ドン・ボスコゆかりの地を巡る

# トリノ — サレジオ会の誕生 — ドン・ボスコの部屋

★イタリア北部ピエモンテ州 トリノ★

文・ガエタノ・コンプリ Gaetano Compri

サレジオ会司祭 チマッツェイ資料館館長

## 作業所や学校をつくる

ドン・ボスコがトリノの見すてられた少年たちを集め、人間として、またキリスト者としての教育と生活の安定を図るために活動していた「オラトリオ」と呼ばれる事業は、何名かのボランティアたちの協力に支えられながら、数百人の若者が集まるまでに成長していった。

ドン・ボスコはその経験から悟ったことがあった。それは、若者たちが自立するには、読み書き・計算の基礎学力のほかに、職業を身につける必要があるということ。そのため、職業学校や、能力のある者には中学・高等学校の教育が必要だと。当時、これは裕福な人にしかできなかったが、ドン・ボスコは、この目標を実現するために、どんな困難をも乗り越える覚悟があった。

1852年に聖フランシスコ・サレジオ聖堂を落成した後、翌年さらにボスコに言葉の意味を尋ねると、ドン・ボスコはそのラテン語を訳すのを手伝った。「私に魂を与え、そのほかは取り去りたまえ。」それはドン・ボスコが聖書から選んだモットーだった。ドメニコはしばらく考えて、「わかった、ここではお金ではなくて、魂の取り引きがあるのですね! どうかぼくの魂がこの取り引きに加われますように」と言った。

心の教育こそ、ドン・ボスコの教育の根本であった。1857年3月9日、ドメニコは15歳の若さで天に召されたが、今も若者たちの模範となる聖人として慕われている。

## 教皇ピオ9世からの励まし

ドン・ボスコには、オラトリオの事業を発展させるために、もっと大きな計画があった。ドン・ボスコの生徒たちがコレラ患者のために献身的に働いたことや、少年院でのドン・ボスコの活動の目覚ましい成果にふれて、ラッタッツィ内務大臣はオラトリオの事業を継続できるよう修道会の設立を勧めた。当時、ピエモンテ王国では35の修道会が閉鎖され、修道院が没収されるなど、教会は厳しい状況にあったにもかかわらずである。「ただし、これまでのような修道会ではなく、国家の法律のもとで一

新しい建物を建て、その小さな部屋を作業所とした。まずは靴の工房、そして服の仕立ての技術を身につける作業所を始めた。同年、月刊「カトリック講話集」の出版を始めたが、そのための製本所を翌54年に始めている。さらに56年には、かつてのピナルディの家を解体して3階建ての建物を新築し、木工所を始めた。またここで町の学校に通っていた少年たちのために、中学校の授業を始めた。

## 「魂の取り引き」

ドン・ボスコの部屋は、最初の作業所で運動場に面した建物の3階にあった。部屋の窓から、ドン・ボスコは運動場を駆け回る生徒たちをよく見ていたものだった。1階入口の右側の部屋にはドン・ボスコの母マルドリータが住んでいた。玄関の階段の前には、グリーンジョという灰色の大きな犬が何度も現れた。ドン・ボスコをたびたび危険から守ってくれた不思議な犬である。

1854年10月、ドメニコ・サヴィオはオラトリオに入るため、父親と共にドン・ボスコの部屋を訪ねた。そして、壁に掲げられている「Da mihi animas caetera tolle」という言葉に気づいた。ドメニコがドン・

般の市民と同じ義務と権利をもつような修道会にしてください」と勧められた。

ドン・ボスコは新しい修道会の構想を練り、のちに「会憲・会則」と呼ばれる原稿を携えて、1858年、ルア神学生と共にローマへ赴いた。教皇ピオ9世に謁見し、修道会設立の許可を得るためである。オラトリオの活動をすでに知っていた教皇は、「あなた方の計画が、青年に多くの善をもたらすことを確信します」と述べ、ドン・ボスコに事業を継続させる方法を考えることと、自叙伝を書くことを勧めた。

## サレジオ会の誕生

1859年12月9日、ドン・ボスコは、これまで共に生活し事業に協力してくれた19名の教え子たちに、修道会創立の計画を打ち明けた。賛同する人は、次の18日にドン・ボスコの部屋に集まるようにと。集まったのは17名だった。そこで一緒に祈ってから、ドン・ボスコの趣旨に賛同する意志を表明し、誓願を立て、「聖フランシスコ・サレジオの修道会」を公式に設立するという議事録にサインした。この瞬間、「サレジオ会」が誕生したのである。



# 「いつも喜びをもって生きる」 ドン・ボスコの霊性

文 ● 浦田慎二郎



## 霊性=その人なりの、神に向かって生きる生き方

霊性とは何か？ 難しく考える必要はない。要するに「どのようにして、自分なりに、神に向かって生き、天国に歩みを進められるか」ということ。その「生き方」は「聖霊」によって導かれるので「霊性」という。

霊性は人それぞれ異なる。ただし、大きなグループのようになることもある。偉大な聖人が現れると、その聖人の霊性（生き方）にならって生きようとする人たちが出てくる。「ドン・ボスコのように生きたい」と思う人たちが大勢現れると、それが「ドン・ボスコ（にならう人たち）の霊性」という形で示されてきたのだ。

### 「聖人になることは 難しいことではないんだよ」

ドン・ボスコはある時、少年たちに言いました。「神さまは、みんなが聖人になることを願っているんだよ。そして聖人になることは難しいことではないんだ。」

ドン・ボスコは思春期の少年たち、働いている若者たち、学生の少年たち

ちを導こうとしていました。ですから、彼らなりに神に向かって進める道（霊性）、つまり「普通の生活をしている若者たちであっても、実行可能な霊性」を示す必要があったのです。具体的にそれはどういう道だったのでしょうか。

### ドメニコ・サヴィオの悩み

愛弟子であったドメニコ・サヴィオ

も、先のドン・ボスコの言葉を聞いていました。その言葉は、彼にとってショックなものであったのです。

ドメニコは少し前にオラトリオに入ってきたばかりで、当時12歳でした。とてもまじめで敬虔な精神をもっていた彼は、最初から「自分は聖人になりたい」という強い気持ちをもっていました。そして聖人になるためには、特別な苦行や祈りをし

ていかなければいけない、と固く信じていたのです。それなのに、ドン・ボスコによると「難しいことではない」というのです。「いったいそれはどういうことだろう？」と悩み始めました。

実際彼は、はたから見てもいつもより元気がなくなっていたようで、心配したドン・ボスコが、彼にどこか具合が悪いのかと尋ねました。するとドメニコは「いったいどうやってたら

簡単に聖人になれるのか教えてくたさい」とドン・ボスコに願ったのです。

### 聖人になるための3つのこと+1

悩めるドメニコにドン・ボスコが与えた答えは何だったのでしょうか？ それは左のような簡単な3つのことでした。

1. いつでも、喜びをもって生きよう。
2. 自分のやるべきことをしっかりやろう。
3. 仲間たちの遊びにいつも加わろう。

確かに、何も特別なことはありません。でもこれをしっかり実行するならば、聖人になれるのです。喜びをもって生きる、ということ

は、心にやさしいところがなく、神の前で心の自由を満喫している状態です。アダムとエバが罪を犯す前にもっていたあの喜びのようなものと言え

るかもしれません。神の前で何の心配もなく、自由に飛び跳ねて、エネルギを爆発させて楽しんでいる状態、それがドン・ボスコが若者たちに勧めていた喜びでした。ただし、ただ楽しむだけではなく、自分に与えられた務めをしっかりと

たしていくこと。目の前にあるやるべきことを、心を込めてやっていくこと。そして、ひとりよがりになるこ

となく、仲間と歩調を合わせて共に歩んでいく姿勢。これがドン・ボスコが若者たちに与えた3つの鍵でした。

実はドン・ボスコはこの3つに加えて、もう1つのことをドメニコに勧めています。それは「仲間たちの魂のために働くこと」です。仲間たち

がより幸せになれるように、より心から喜べるように、助けていくこと。これが聖人になるためのもう1つの大きなポイントでした。

ドメニコに勧めたこれらのポイントこそ、まさにドン・ボスコが実践していた霊性だったのです。



©Salesian family



浦田慎二郎 うらた しんじろう

サレジオ会司祭。サイテック館長。  
ドン・ボスコの研究家。



ドン・ボスコの生き方の秘訣は、とてもシンプルだ。

「いつも喜びをもって生きること」。

そして「仲間たちの幸せのために働くこと」。

ドン・ボスコの学び舎の教え子たちが、どのようにその勧めを実践しているのか3人の生き方を紹介しよう。

取材・文・写真 ● 編集部

人のために喜んで生き、働く

生徒が主役になること、そしていつも、つとめて笑顔！

高千穂町立上野中学校 教諭

しき あきな

志岐明奈 さん

# 人のために喜んで生き、働く

特集



ひよんなことから入学した高校で将来の夢を発見！ 現在、英語の先生として奮闘中の志岐明奈さんに話を伺った。

― 都城聖ドミニコ学園

高等学校（以下ドミニコ）に

行きたいきさつは？

実は第一志望の高校に行けなかったからです。本当にショックでした。第二志望としてドミニコではない高校から合格内定をもらっていたのですが、けれど、実際にこの高校でいいのかなと高校選びを初めて真剣に考えました。父の勧めで調べてみると、ドミニコには外国に行ける交換留学制度があることを知りました。私は英語が大好きだったので、こがいいなと思い、二次試験で受験し直してドミニコに入りました。今思えばドミニコでよかったです。きつと「あなたはここに行きなさい」という神さまの導きだったのかなと思います。

ドミニコでは毎日が楽しく、いつも笑っていたように思います。小人数のクラスで、もうみんな家族みたいでした。先生たちはみんな親しみやすく、まるで自分の子どものように接してくださいました。放送朝礼でシスター

が話される聖書の言葉と解説も思い出します。心に染み入りました。感想をノートに書いて提出すると、シスターがそれにたくさんコメントしてくださいました。その励ましや勧めがとてうれしかったです。

― 英語の教師になるという夢もドミニコで？

はい。私にとってドミニコでよかったのはなにより将来の夢が決まったということです。それが英語の先生になることでした。高校1年の夏、アメリカに2週間程度のホームステイをしました。それまでは警察官になりたいという夢があったのですが、このとき「いや、違う、英語の教師だ！」と。このとき初めてこんなに英語っておもしろいんだと思いました。英語って使うもので、会話をすると友達ができるんだと感激しました。そして、そこで感じたことを次の子どもたちに伝えていかないと、もういい、もうだ、教えるために英語の教師になろうと思ったのです。

― 教えるときに

大事にしていることは？

やはり生徒が主役になるということですね。今の英語教育は、私が中学生だった頃とは変わってきていて、コミュニケーション力をつける内容が多くな



なくてはいけないと思います。

― 後輩たちへのメッセージを

自分の好きなことを見つけて続けてほしいなと思います。私は中学生のとき英語が好きだったということから、次々といろんな機会があつて将来を夢見ることができ、そして今の自分があるのだと思います。好きなこと、得意なことを見極めて続けていくうちに、がんばれば夢となって実現できるかもしれません。まだわからなければ探してほしいです。必ず見つかるはずですよ！ ★

★サレジオ歴★

都城聖ドミニコ学園高等学校

【プロフィール】

1983年、宮崎県都市に生まれる。都城聖ドミニコ学園高等学校卒業。宮崎公立大学人文学部卒業後、宮崎県公立中学校英語科教諭に。現在、宮崎県高千穂町立上野中学校に勤務。



都城聖ドミニコ学園高等学校

宮崎県都市下長飯町 881  
www.mdominico.ac.jp

上野中学校入口の石碑前にて。元気いっぱいの現役先生だ。

自分の好きなことを見つけて、続けてほしい。



生徒とともに、生徒のために。  
高校野球に捧げた43年間。

日向学院高等学校 野球部前監督

みはら たけひろ

# 三原武博さん

日向学院OBで、体育の教師として同学院に奉職し、また高校野球部監督として43年間指導してきた三原武博先生が、この3月をもって退職された。とくに高校野球への熱い思いを語っていただいた。

― 母校の教師になったいきさつを。 ―

私は宮崎県国富町の公立中学校から高校は日向学院に進学しました。部活動はなにもしませんでした。体育が好きだったので学院を卒業して千葉県の順天堂大学体育学部（現スポーツ健康科学部）健康教育科に進学しました。ただ体育の教師になるというイメージはなく、いずれどこかの企業に就職できればと思っていました。ところがそのころ日向学院

で体育の先生を一人採用する話があつて、卒業生の私の名前が出たそうです。そして当時の校長のマッサ神父から大学のほうに連絡が来ました。自分としては宮崎に帰りたいという気持ちもあつたので面接を受けました。そして中学校の体育の教師と寮監という条件で採用していただきました。

― 高校野球部の監督になったいきさつは？ ―

私がまだ若い新卒の体育の先生ということで、高校野球部の生徒が「ノックをしてくれんか」と。私は中学まで野球部にいて少しは心得があつたので引き受けました。すると高校生たちが明日も来てくれと。これが最初のきっかけで、そのうち監督の先

生から野球部を任された感じになつてしまいました。

その頃、日向学院は進学に力を入れるという時代であり部活動は熱心でなく、生徒も勉強の余暇に野球をやるという感じでした。私も生徒

し、一つ勝ち、二つ勝つうちに、なかなか不思議な雰囲気が出て奇跡的に勝つていったのです。

高校生というあの年頃の子は、技術の戦いの前に精神の面で負けたり勝つたりするんですね。よく世間でいう「あきらめちやいかん」というのは本当です。そしてゲームに魔物が潜んでいるというのは、強いチームでも精神面で崩れていくことなんですね。生徒たちにはこのことをよく話しました。心が相手よりも負けていたら試合に負けるよと。相手が技術で10持っていても心が弱くて7しか出せないかもしれない。うちは技術を7しか持っていないでも心が強くて7出せば五分だぞと。

そして結果を出すことが一番の薬です。やはり勝つことです。監督は試合で勝たせるのが役目です。練習試合でも勝ったときの表情は生徒も親もすごくいいですね。公式戦で勝つと練習試合の10倍ぐらいみんな手を取り合つて喜びます。勝つて得るものというものはあります。だから必死になります。だけど負けたときの悔しさを何度味わったことでしょうか。監督をしていて苦労が9割で、喜びは一瞬です。その一瞬の喜びが何にも変えられないですよ。

## ★サレジオ歴★

日向学院高等学校

【プロフィール】

1945年、宮崎県国富町に生まれる。日向学院高等学校を卒業。1970年、同学院の体育科教諭となる。2年目に高校野球部監督に就任。1980年、第62回夏の全国高校野球選手権大会、1987年、第59回選抜高校野球大会に同学院を導く。2013年3月退職。



日向学院中学校・高等学校

宮崎県宮崎市大和町 110  
www.hyugagakuin.ac.jp

― 次世代へ伝えたいメッセージは？ ―

好きな言葉は「練習は嘘をつかない」ですね。練習も基本的な練習をしつかりしなければ、高度な技術は身につけません。練習をせずに試合をしても負けます。勉強も同じです。やらずに試験を受けたって負けます。

指導者として43年心がけたのは常に生徒がいるところに自分がいるということ。やはり指導者は現場にいて一緒に共有しなければならぬと思います。ですから私は練習を絶対休まず、生徒が練習するときは必ずそこにいました。どんなストイックになつていても生徒がユニフォームを着ているなら自分も着ました。監督というのは生徒の調子の良し悪しを把握できないと動かせません。人づてではなく、その場において自分で把握することが大切です。きざな言い方かもしれませんが、生徒に対する愛情といつてもいいかもしれません。まさにドン・ボスコが言うアシステンツァは私の高校野球指導の原点なんです。★



2012年7月、夏最後の指揮

と一緒に楽しめばいいと思って手伝っていました。ですから当然試合では弱いんです。試合に出ると負け、それもひどい負け方でした。もうゲームが成り立たない。これではいかん、やるのであればもう少し腰を据えてやってみようという気持ちになりました。就職2年目から寮監を免除してもらい、正式に高校野球部の監督としてスタートしました。

― 最初から高い目標を設定したのですか？ ―

甲子園というイメージはまったくありませんでした。自分たちの力量や環境を考えたら無理だろうと。ただ任された以上は恥ずかしくない試合をしたい。生徒は敏感ですから監督がどの程度本気なのかは見ています。

それは生徒にも伝わっていたと思います。そうやって3、4年経つうちに結果が出るようになってきました。県大会の1回戦でゴールドで負けなくなり、ときどきベスト8まで行けるようになっていくと、宮崎のマスコミにも取り上げられるようになりました。そして試行錯誤しながらやって10年目に甲子園に行きました。運もよかつたのでしょうけれど、たまたま結果が出ました。

実は10年目に甲子園に行ったのですが、今思うと9年目のチームが最強のチームでした。ところが彼らは宮崎県大会の決勝で負けました。そして次の年の選手は育っていませんでした。実際に弱く、何の前評判もありませんでした。夏の県大会前まで6勝23敗ぐらいだったと思います。しか



いつも明るく、神様といっしょ。  
喜びをもって輝いた命。

いまい かずき

# 今井一輝くん

たとえ苦しい病の中にあっても、「喜び」をもって生きられることを証してくれた少年がいる。今井一輝くんは、2013年4月11日、長い闘病生活の末、14歳で天国に召された。輝いて人びとを幸せにしてくれた、一輝くんのエピソードを紹介したい。

## ★サレジオ歴★

目黒サレジオ幼稚園  
目黒星美学園小学校  
カトリック碑文谷教会  
(サレジオ教会)

【プロフィール】  
1998年生まれ。目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小学校に通い、カトリック碑文谷教会(サレジオ教会)日曜学校に所属。小学4年生の時から闘病生活を送り、中学2年生の時に受洗。家族・友人に気配りと明るさを絶やさず、2013年4月11日、天に召される。



元気にサッカーをしていた頃の一輝くん

れる人が大勢います。

一輝くんは、とても活発な子で、いたずら好きで、サッカーが大好きな少年でした。そんな彼が突然病に倒れたのは小学4年生の時です。碑文谷教会日曜学校サッカー部の練習中のことでした。検査の結果、彼は10万人に1人ともいわれる「小児脳腫瘍」を発症していたことがわかりました。そこから彼と家族の長く苦しい闘病生活が始まります。

何も知らないで一輝くんに会う人は、彼がそのような苦しみを耐えていることがわからなかったかもしれせん。彼はいつでも明るく、いろんな人に積極的に接して、冗談を言い、ふ



右から2番目が今井一輝くん。  
昨年7月29日、入院の前日、  
大好きな家族と一緒に

ざけ合って、楽しんでいたのです。

## 他の人のために、

### 苦しみをささげたい

一輝くんは中学2年生になり、再び入院。今度は白血病を併発。家族は一輝くんが細胞の移植手術を受けることを決意しました。

入院する前に、彼は洗礼を受けることを希望し、洗礼名は「イエス」がいい」と言いました。理由は「できるだけイエスさまの近くにいたいから」でした。しかし、それは難しいので、代わりに「インマヌエル」(「神は私たちと共に」の意味)が提案され、彼はそれを受け入れました。2012年9月23日夕方、彼は洗礼を受けて、神さまの子どもになりました。洗礼式の後、彼はマイクをとって皆にこう

言ったのです。

「何も悪いことをしていない自分が、なぜこんなに苦しい思いをしなければならないのか、わかりません。でも、僕はイエスさまのように、他の人のために、この苦しみをささげたいと思います。」

洗礼を受けた一輝くんには、それまでにはない、深い落ち着きが生まれました。入院中の彼を訪問するたびに、彼から「神さまのお話を聞かせて」とせがまれて話していたのですが、何度か「どこでそのような教えを学んだのだろう」と驚かされる発言がありました。そのうちの1つで、決して忘れられない言葉があります。

「いいことも、つらいことも、みんな神さまに感謝だよね。」

## 「僕って本当に

### 幸せ者だなあ」

福島に転院し、再び苦しい闘病生活が始まりました。特に移植の後、次から次へと新たな苦しみ、主治医にとつても過去の例に無いほどの激しくつらい症状が続いていました。しかし、その中でも彼の周りへの気配りと明るさは、なくなることがありませんでした。

「できることなら自分が代わりた」と言ったお父さんに、一輝くんは

こう言いました。「お父さんがつらい思いをするのは、僕はイヤだ。絶対に代わらないよ。」

また別の時に、お父さんが一輝くんのつらい状況を見て落ち込んでいる様子に、こう言ったそうです。「僕は治療をがんばるから、お父さんは仕事をがんばってね。」

福島での入院中、角膜がはがれて、失明の危機がありました。その時に、ずっと福島で彼と寝食を共にして看病していたお母さんが思わずため息をついてしまうと、一輝くんは「お母さん、普通にしていよ」と言いました。お母さんは「普通にしていたら、私、うるさいわよ」と返すと、「うん。それでいい。笑っている方がいいよ。」

ある時、一輝くんは嬉しそうに、こうつぶやきました。「僕って本当に幸せ者だなあ」なぜ? 「こんなにいろいろな人にやさしくしてもらって、いい仲間恵まれて、僕は本当に幸せ者だ。」

## どんな時も、

### 喜びをもって生きる

しかし、生涯の最後に、やはり闘病生活はやつてきたようです。彼はそこから急に、「もう生きたいんだか、死にたいんだか、わからなくなってきた。」「天国って本当にあるのかな……」



闘病中のベッドの上で

というような言葉をもらし始めました。弱りつつある体と、苦しみの中で、彼の精神も強く揺さぶられていたのでしょう。それは最後の苦しみの一つでした。

こうして、最後の日、4月11日がつてきました。集中治療室に入っていた彼の容体が急変し、家族が呼ばれました。お母さんの呼びかけに、意識のない一輝くんの目から一筋の涙が流れました。

一輝くんの肉体はもうこの世にありません。しかし、彼の命は永遠に生きていて、彼が自分の生涯をかけて残してくれたメッセージは、常に私たちに働いていると感じられます。

「どんな時も、喜びをもって生きる。」  
一輝くんのメッセージが多くのの人に伝わっていくことを願っています。★

(文／浦田慎一郎)



感動的な洗礼式。碑文谷教会にて

とていとも、つらとていとも、みんな神さまに感謝だよね。



サレジオンのルーツと  
出会う旅

サレジオ学院中学校イタリア研修旅行



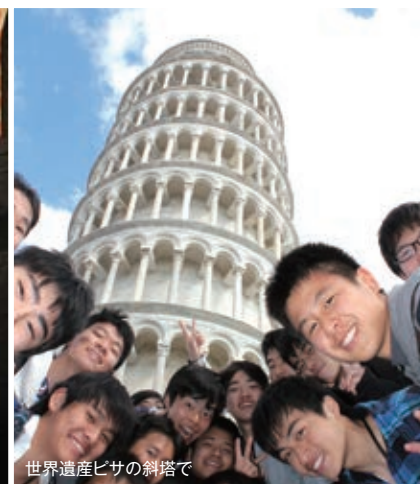
スポーツをとおして、国境を越えて親睦を深める



世界遺産コロッセオで



校長同士、生徒同士によるプレゼント交換



世界遺産ピサの斜塔で



ドン・ボスコの故郷ベッキにて、ドン・ボスコ記念聖堂を訪問



互いの演劇やダンスなどの発表は大盛り上がり!



バチカン美術館、システリーナ礼拝堂は貸切見学でした



ローマのピオ 11 世校との交流会。緊張もすぐにほぐれていきました



フィレンツェやローマでの班別行動は、ガイドと英会話で



トリノのドン・ボスコに見守られてジャンプ!



ドン・ボスコが育った家の前で記念撮影!

サレジオ学院中学校(神奈川県横浜市)の中学3年生179人が今年3月、研修旅行でイタリアを訪問。その実りある旅の様子を紹介します。

文・写真 ● サレジオ学院中学校・高等学校

はじめての  
イタリア研修旅行

この研修旅行には2つのねらいがありました。1つめは、サレジオ生としてのアイデンティティを発見することです。創立者、聖ヨハネ・ボスコがどのような場所で生まれ、どのような場所で子どもたちと関わったのかを知るために、実際にその地にたつずむことは、ドン・ボスコをより身近に感じる機会となりました。また、ローマにあるピオ11世校での中学生同士の交流会は、自分たちが世界に広がるドン・ボスコの学校の一員であることを体験できました。

目的の2つめは、ヨーロッパ・キリスト教文化に触れることです。ピサ、フィレンツェ、またローマ、バチカンの聖ペトロ大聖堂、システリーナ礼拝堂を見学することによって、その中に流れる精神性を体感するよい機会となったと思います。(サレジオ学院中学校・高等学校 校長 鳥越政晴)

ドン・ボスコ  
ゆかりの地を訪ねて

な外観から、製作者や当時の人びと、またその外観を現在まで保ち続けた人びとの信仰心を感じ、とても感動しました。

聖書には、信仰について「見えるものは過ぎ去るが、見えないものは永遠に存続する」と書かれています。今残っている聖堂や絵画のほとんどが一度は修繕工事などを受け、造られた当時のままだというわけではありませんが、それでもなお人びとに感動を与え続けているのは、キリスト教を後世に伝えようとする人びとの信仰心が積み重なっているからだと思います。イタリアのキリスト教文化は、歳月を重ねるごとにその重みを増していると感じました。(鬼形新)

## ピオ11世校との交流会

私たちは同じサレジオ会によるローマのピオ11世校を訪問しました。まず劇場で盛大な拍手で迎えられました。そして、ピオ11世校の生徒たちによる劇やダンスの出し物を楽しみ、お返しに私も含めた数人で、ダンスを披露しました。ゴールデンボンバーの「女々しくて」という曲を使い、前日までホテルの部屋で何度も練習しましたが、ローマの中学生たちに楽しんでもらえるのかどうか不安でした。ところが、ピオ11世校の生徒たちのほうが日本のサレジオ生よりもさらに

ドン・ボスコの生まれ故郷、ベッキにバスが着くと、記念聖堂の壁に描かれたドン・ボスコの絵が僕たちを迎えてくれました。聖堂の中に入ると、ノアの箱舟をイメージさせる木の造りが僕たちの心を温かくさせてくれます。祭壇の奥には、高さ8メートルに及ぶキリスト像があり、荘厳な雰囲気を感じました。聖堂の近くには復元されたドン・ボスコが育った家があります。貧しい中でも懸命に生きた彼の少年時代が想像できました。

トリノでは、扶助者聖母大聖堂を中心にドン・ボスコのゆかりの場所を見学しました。実際に使用した部屋や物を見て回ったことで、ドン・ボスコをより身近に感じることができました。(常川大翼)

イタリアの  
キリスト教文化に触れて

イタリアには、バチカンの聖ペトロ大聖堂をはじめ、数多くの有名なキリスト教の建築物や宗教画があります。これらの建築物を見て、様々な建築技術を駆使して造られた豪華

盛り上がりしてくれました。日本の文化をすぐに吸収して楽しんでくれたことは、驚きでもあり、また大きな感動でもありました。

交流会後半には、サッカー、バスケットボール、バレーボールで対戦しました。異文化の人間同士が、同じドン・ボスコの学校の仲間であるというだけで、ここまで仲良く交流し心一つにできたことは、中学校生活一番の思い出になりました。(田中幾多郎)

## ピオ11世校からの手紙

チャオ、今回皆さんにお会いできてとても嬉しかったです。私たちの学校にとって、皆さんの訪問はまさにお祭りでした。皆さんを歓迎するために、一生懸命準備しました。スポーツーナメントでプレーできたことも、とても良かったです。いつか皆さんに会いに日本に行ってみたいし、日本をより知りたくなりました。有志発表のダンスがすごく気に入りました。ありがとうございました。チャオ!

エリザベッタ・メンテサーナ





ヨーロッパ

## ドン・ボスコ聖遺物巡礼

世界中を巡っているドン・ボスコの聖遺物は、再びヨーロッパに戻り、2012年12月にドイツを訪問。2013年1月2～15日はイギリス各地を訪れ、イギリスの教会と多くの人びとにドン・ボスコを紹介する機会となった。晴れの日も雪の日も、全国で2万人近い人びとが地元の司教司式ミサ、巡礼集いに参加しドン・ボスコを迎えた。また30名以上の若者がボランティアとして聖遺物に同行し、喜びと親しみやすさにあふれたサレジオ

スコの心——心から心へ」をモットーに、参加者の心にドン・ボスコのあとに従いたいという願いとサレジオ家族の一員であることの喜びを呼び覚ました。

学生、教職員、ユースセンターの若者から選ばれた選手たちが、1周400メートルのグラウンドを200周し、最後にラッパを吹きながら先頭を歩くフェドリゴッティ神父と一緒にトラックを一巡すると、全員が笑顔と喜びに包まれた。1ピースが1平方メートルの巨大バスル200ピースを、選ばれた200人がグラウンド上で組み立て、出来上がったのはドン・ボスコの肖像。生誕200周年に向けて引き続きサレジオの精神を広めるという参加者の望みを表した。全員で旗を振る様子は、ドン・ボスコの旗の下、サレジオ家族の一致を表す瞬間となった。

ハンガリー

ハンガリーのサレジオ会員  
ステファン・サンドル祝福へ

2013年3月27日、教皇フランシスコは、信仰への憎しみによって処刑されたサレジオ会修道士ステファン・サンドルの殉教の布告を承認された。

ステファン・サンドルは、1914年10月26日、ハンガリー・スゾルノ

の精神を、訪問した各地で分かち合った。

続く16日、北ベルギー・オランダ巡礼を開始。最終日の1月31日はドン・ボスコの祝日を喜びと熱意、深い信心をもって祝った。子ども聖歌隊によって活気あるものとなったミサの後、聖遺物を納めたドン・ボスコ像は聖堂内にそのまま安置され、多くの人びとが愛情をこめて像に触れ、祈りと沈黙のうちにドン・ボスコとのひとときを過ごした。ベルギー最後の訪問先となった地元刑務所では、囚人たちがドン・ボスコの話を聞き、聖歌を歌い、沈黙のうちに祈り、祈願を書いた紙をドン・ボスコ像の足元に置いた。

その後ドン・ボスコは、オーストリア、チェコ、アイルランド、クロアチア、ウクライナを訪問、各地で民族色豊かな熱い歓迎を受け、若者からお年寄りまで、さまざまな人びとと出会った。4月11～30日



ドイツで



ステファン・サンドル

クに生まれ、サレジオ会広報誌を通してドン・ボスコを知り、即座にサレジオ会精神に引きつけられた。1936年にブダペストの志願院に受け入れられ、印刷技術を学んだ後、1940年9月8日、初誓願を立てた。召命教育に積極的にかかわり、オラトリオのアシステンテを務め、カトリック労働青年会を広めた。貧しい青少年を心にかけて、手に職をつけさせることを願った。

1949年、共產主義政権により教会資産の没収やカトリック学校の弾圧が始まり、サンドル修士たちは一夜にしてすべてを失い解散させられた。サンドル修士は、若者のために働くことと西側に逃亡せず、国内に留まり洗剤工場で働いた。厳しく禁じられていたキリスト教の宣教活動を密かに続行したが、1952年7月、職場で拘束され、公文書によると死刑宣告を受け、1953年6月8日、絞首刑に処せられた。

列福式は2013年10月19日、バチカン列聖省長官アンジェロ・アマート枢機卿によってブダペストで執り行われる。



イギリスで



オーストリアで



クロアチアで

はスロバキアを訪れ、ミサ、祈りの集い、ゆるしの秘跡、終夜聖体礼拝などが行われた。貧困問題を抱

シリア

将来が見えず、  
悲しみに沈む若者たち

2012年7月以来、シリアでは首都ダマスカスをはじめ、各地で砲撃などにより多くの死傷者が出るようになり、人びとの生活は不安に覆われている。サレジオ会は危険を避け中断しながらも、子どもや若者、その家族のために、教育活動、家庭訪問、祈りの集い、黙想会などを行い、精神的に支え、医薬品やお金など物的支援も努力し続けている。

「若者たちが私に訴えました。『神父様、僕たちは疲れました、神様はどこにいるんでしょうか』と語るのは、シリアを訪れた中東管区のムニール・エル・ライ管区長。ただ共に過ごすために多くの家族がサレジオ共同体を訪れ、庭のルルドで聖母に歌をささげて祈り、



ムニール・エル・ライ管区長と子どもたち

える地域では近隣からも遠くからも多くの人が集まり、カトリックが少数の地域では、ほとんどの信者がミサに参列。サレジオ家族や信徒の間に多くの熱意を呼び覚まし、別れがたいひとときとなった。

中国

ドン・ボスコ生誕200周年に  
向けて大集合

2013年1月20日、中国管区のサレジオ家族は、ドン・ボスコ生誕200周年に向けたイベントをウー・クワイ・シャ村で行い、香港の名誉司教ヨセフ・ゼン枢機卿をはじめ、サレジオ家族、若者など800人ほどが参加した。「ドン・ボスコの精神を知り、それにならい、それを受け継ぐ」というチャールベス総長の招きに応え、「ドン・ボ



ドン・ボスコの肖像を囲んで

ボナツテ（短いよい話）を聞く。信仰年にあたり、「あなたが共におられれば私は恐れはない」というテーマで行われた若者の集いは、1200人の若者が教会と運動場を隙間なく埋め、驚くべき光景であった。

カフルーンではドン・ボスコの祝日に東方典礼カトリック教会マロン派の司教も参加し、地域の難民のために食事をふるまい、キリスト信者もイスラム教徒も音楽や歌で共に祝い、兄弟的なひとときとなった。悲劇のなから連帯と助け合いが生まれている。

「イン」民主共和国

## 明日への不安を語る

コンゴ民主共和国では、キフ北部での内戦が激しくなっている。ゴマのドン・ボスコ・センターのガヴィオリ神父は、会員たちが目にして

「爆弾がひときわ大きな音をたてて爆発したときです。扶助者聖マリアの祝日の準備に並んでいた一人の少年がスワヒリ語の聖歌を歌いはじめ、全員が熱意をこめて一緒に歌いだしました。『主イエス、わが牧者、あなたのそばで、私の生涯からすべての恐れを取り去ってください。喜びと平和に満ちた天の町に、入ることができま





すように……」

2013年5月23日、停戦が宣言され、国連のバン・キムン事務総長がゴマを訪問、国際社会の支援を約束した。学校、銀行、商店が開き、ドン・ボスコ・センターでは授業や扶助者聖マリアのお祝いのためのトーナメント企画が行われた。

一時的な難民収容施設として指定されたセンターは、3つの大きなサッカー場を提供、国連の支援団体がテントやトイレを設営し、食料と水を搬入することになる。

ガヴィオリ神父は、「明日はどうなるのか、私たちにはわかりません。ただ、善き牧者キリストと扶助者聖マリアが、いつくしみのうちに私たちを守ってくださいと知っています」と語る。

エチオピア

悲しみからのちへ

2011年に始まった「アンドレアの井戸」プロジェクトでは、サレジオ会のNGO「V・S・開発のための国際ボランティア」によって、この2年間でエチオピアの村々に5つの井戸が掘られた。

オラトリオの外の交差点で車にはねられ亡くなったイタリヤの少年アンドレア・デナンドさんの大きな夢は、干ばつに最も苦しむアフリカの地域に水を運ぶことだった。家

族とV・Sの取り組みが実り、アンドレアさんの夢の実現に向けてキャンペーンが行われ、基金が創設された。

アンドレアさんの母親エリザベッタ・チボツローネ・デナンドさんによつて落成されたこれらの井戸は、50〜60メートルの深さで、手動のポンプで汲み上げられる。4月にできた2つの井戸は、1200人ほどに水を供給する。「V・Sの皆さんやサレジオ会の宣教師たちが行っている、すばらしい活動に私たちは心を打たれます。井戸が2年たつ



人びとを潤す「アンドレアの井戸」

た今もよく動いていて、人間が生きたるためになくはならない水を供給していることは、大きな喜びです」とエリザベッタさんは語る。家族の深い悲しみは、エチオピアの村々でいのちの希望へと変えられ、まもなく6つ目ができ上がるうとしている。

ちが、ドン・ボスコのように社会の人びとや危機に直面した若者のために役立ちたいという思いから自発的に活動を始め、1908年にサレジオ家族の1団体として正式に発足。各国・地域での独自の活動だけでなく、世界的ネットワークをもつて活動している。

まず、チャオブラヤ川デザイナークルーズでの歓迎・懇親会で和気あいあいと交流。翌朝は開会ミサと厳かな開会式で開幕した。世界連合代表フランチェスコ・ムチエオ氏をはじめとする役員たちは、サレジオ同窓生としての喜び・誇り・使命・連帯など情熱的なメッセージを語った。

基調講演では、世界連合代表サレジオ会員ラミレス・ホセ・パストル神父がサレジオ同窓生の原点・理念・今後の活動方針を確認。チャールズ総長が同窓生に、貧困をなくし、良いものを分かち合うネットワークを築くよう呼びかけていることを伝えた。とくにアジアでは、少年少女兵、男女格差、児童買春、軍事独裁など政治的問題、経済格差、貧困、宗教の自由・多様性など、取り組むべき多様な課題があるが、同窓生たちが「よい市民」「世の光、地の塩」として、専門性を生かしながら力を集結し連帯するなら、大きな実りが得られると呼びかけた。

各国の活動報告では、カンボジ

韓国

夢のユースセンターを開設

2013年6月13日、ソウル市によつて開設され、サレジオ会が運営するソウル・ユース・ドリーム・センターの開所式が行われ、サレジオ家族、ソウル市職員、若者など、400人が列席した。

若者の間で流行するダンスで知られる江南（カンナム）地区は、1970年代からの韓国の急速な経済成長の象徴ともいえ、流行の最先端としてきらびやかな反面、消費主義社会に翻弄される若者の問題などを抱えていた。

ソウル市が所有する7階建てビルの2つの階を使い、青少年司牧の分野で経験豊かな3人のサレジオ会員や20名ほどの専門性をもった信徒のチームによつて運営されるセンターは、ドン・ボスコのオラトリオ



ユースセンターの開所式

ルで盛大なミサと閉会式が行われ、サレジオ家族の学校の生徒たちがタイの民族衣装で美しい伝統舞踊を披露。4年後の2017年に開催される東ティモール大会での再会を約束し、バンコク大会は閉幕した。

大会中、幾度となく繰り返された言葉は「あなたがたは地の塩、世の光」という聖書の言葉、そしてドン・ボスコの「よい市民であれ」。今大会の決議を受け、日本でもサレジオ同窓会連合の活動を活性化すべく、今夏会合が開催される予定。同窓生が社会や地域で、困難な状況にある若者たちと共に未来を輝かせることが期待される。



13か国280人の同窓生が集まった会議の様子

の現代都会版として、事情により家庭を離れた若者たちのための宿泊や食事の提供、職業や資格取得の相談、グループ活動、カウンセリング、若者のための性教育など、幅広いサービスを提供する。サレジオ会のステファン・ナム韓国管区長は、「このセンターに来るすべての若者が愛される体験をし、人生の夢を見いだし、誠実な心ある人へ成長することを願っています。あなたがたは若いというだけで、大きな愛で愛される存在なのです」と語った。

タイ

サレジオ同窓会世界連合  
アジア・オーストラリア地域  
バンコク大会

4年に1度行われ、10回目となる「サレジオ同窓会世界連合アジア・オーストラリア地域大会」が2013年2月22〜25日、タイ・バンコクにて開催され、13か国280人が参加。日本からは同窓会連合事務局秘書・管区広報担当の立石光洋氏とサレジオ小学校・中学校校長の鈴木正夫神父が出席し、各国の同窓生と交流・親睦も深めた。サレジオ同窓会世界連合（Salesian Past Pupils of Don Bosco）は、ドン・ボスコの学校・施設・ユースセンター等の卒業生た



各国の活動報告。写真はベトナム、民族衣装を着て



すっかり打ち解けた同窓生たちとアユタヤ観光へ



閉会式で生徒たちによる美しい伝統舞踊



# 森の奥で君を待つ

文・ノゾエ征爾  
絵・おむらまりこ

目を覚ますと、男の子がワタシを見ていた。

中学生くらいだろうか、まだあどけなさがどこかに残るその男の子は、ワタシのことを驚きと、好奇心と、恐怖心とで、じっと見ていた。ワタシが体を動かすと、男の子は、わぁーと叫んで逃げていった。そんなに怖がらないでもよからうに…。

ワタシはどうやら、森の中で眠っていたようだ。体が重い。思うように動けない。顔をあげると、さっきの男の子が、木陰からこっそりとワタシの様子を伺っている。話しかけたいが、うまく口が動かない。もう、何年ここにいたのだろうか。

ワタシは、自分が怖いモノではないことを男の子に示したかった。手を振って、足を上げて…。あれこれ動いているうちに、ぶざまに転んでしまった。

男の子は笑っていた。恥ずかしかったが、彼の恐怖心がほぐれたのは、これ幸い。そして男の子は、そろそろと近づいてきて、言った。

「君は、ロボット？」

ワタシは、コクリとうなずいた。

そう、ワタシはロボットである。名前はまだない。

「君、言葉がわかるの？」

ワタシは、言葉がわかるだけではなかった。何を隠そう、ワタシは、願い事を叶えるロボットなのだった。

「ね、願い事？」

ワタシは、三つの願い事を叶える、夢のロボットとして開発されたのだった。しかし、三つ目を叶えると、壊れて消滅する仕組みになっていた。男の子は、半信半疑で聞いてくる。

「本当になんでも叶えてくれるの？」

とはいえ、ワタシにできることしかできない。

「じゃあ、苺をお腹いっぱい食べた

い。」  
ワタシは、男の子の前に五十個ほどの苺を差し出した。

「わあ、すげえ!!」

男の子は感激して、苺にむしゃぶりついていた。

「これで願い事、一つ使ったことになるの？」

当然だ。

「わあ、もったいないことした〜!」

と、嘆きつつ、嬉しそうに苺をほおべる男の子。ワタシは、久しぶりに出会った人間に、少し嬉しい気持ちでいた。

男の子の名前は、カナトと言った。カナトはなにやら、アキラという友達と喧嘩して、森に逃げてきたという。

「アキラなんて、いなくなればいいんだ。…そうだ! 二つ目のお願い。アキラをこの世から消し」

ワタシは慌ててカナトの口を塞いだ。ワタシの体は、悪い願い事をすると、大爆発する仕組みになっていた。

「ワタシ ノ ナカマ、ミンナ、バクハツ シテシマイマシタ:。」

爆発させた人間も愚かだが、そもそもが、ワタシたちなんて、存在しない方が良かったのだ。

カナトは同情するようにワタシを見ていた。ワタシはカナトに尋ねた。

「アキラ ノ コト、ソンナニ、キライ？」

「うん、二度と会いたくない。」

でも、例えば、カナトが崖から落ちそうになっていたとして、そこをアキラが通りかかったとしたら？

「そりゃもちろん助けてもらうさ。」

アキラは助けてくれるだろうか。

「助けてもらわないと困る。」

じゃあ、アキラでもいた方がいいん

じゃないのか？

「イナクテ イイヒト ナンテ イナイ。」

「…そんなに言うなら、あいつのいいところ、一つ何か教えてくれよ。」

アキラのことはよく知らないが、とりあえず一つあると思った。

「なんだよ」

「カナト ニ アヤマリタイツテ。モリ

ノ ナカ、ズット サガシテイル。」

「え？」

森の向こうから、「カナトくごめん!」と呼ぶ声がしている。

「……。今ので、願い事二つ目?」

そりゃそうだ。

「け、ずるいの」

と言いつつ、カナトは嬉しそうに、声のする方に向かっていった。

「ロボさんは、ここにいるの?」

わざわざややかしい人間界におもむくつもりはない。

「そっか、じゃあまたね。」

三つ目の願いがまだ残っている。

「そんなの言わないよ。」

何故だ。

「だって、三つ目言ったら、君は壊れちゃうんだろ? そんなの言わないよ。

あ、そうだ。やっぱり言っていない?」

言うんじゃないか。

「では三つ目。」

ずっとここにいてくれ。僕、たまに遊



君と話をする相手が皆、君の友人となるように。

ドン・ボスコの言葉 ~「心が強く優しくなるドン・ボスコのこぼし話」 P.122~

## ノゾエ征爾

サレジオ学院中学校・高等学校卒業。脚本家、演出家、俳優。大学在学中より劇団「はえぎわ」を主宰。2012年『〇〇トアル風景』で岸田國士戯曲賞受賞。舞台、映画、テレビ、ラジオ等で活躍中。www.haegiwa.net

## おむらまりこ

目黒星美学園小学校 図工科教諭。武蔵野美術大学大学院修了。絵本に『はいいろのこひつじ』『たいせつなおくりもの』『ヨハネ・ボスコのたいせつなゆめ』。イラストに『森本千絵うたう作品集』。





家庭部と都城ワイナリーと大山食品とのコラボでドレッシング「ドミドレ（ドミニコドレッシング）」を開発し販売



オーストラリアの姉妹校にて



礼法の授業（作法室で茶道）



全校でクリスマス・キャンドルサービス



聖母祭「保護者への感謝のひととき」手紙と花束贈呈



# 常に真理を求め、 真の愛に成長する

宮崎県都城市

都城聖ドミニコ学園高等学校



生徒会のメンバーと先生たち

した。学園の教育は、「カトリック的世界観に基づいた人間教育」であり、「常に真理を求め、真の愛に成長する」生徒を育てることです。

## 明るくアットホームな学園

ドミニコの1日は聖歌と朝の祈りから始まり、終礼の祈りで終わります。また、聖母祭や慰霊祭、全校クリスマス、各学年の修養会などの宗教行事も大切に行っています。このような校風や緑豊かな環境の中で生徒一人ひとりが大切にされ、愛されていることを実感しています。

「ドミニコは一人ひとりをかけがえのない存在として大切に、あたたかさを共感できる学校です。アットホームな雰囲気の中で、周囲の人への思いやりと感謝の心を学ぶことのできる学校です。」（生徒会長 有村夏海）

## 女性として妻として母として マルチタスクに応えるために

同敷地内にある聖ドミニコ学園幼稚園への交流教育では1日幼稚園の先生になる体験ができます。これを通して母性や幼児教育者としての適性に目覚める生徒がたくさんいます。また、専門家を招いての教育講演会（生命、人権、マナー、進路など）を実施することによって社会からま

すまず必要とされている女性の役割と仕事、ライフプランを考えるキャリア教育を実施しています。

## 夢を世界に広げる国際感覚を養う

オーストラリアとフィリピンの姉妹校へ生徒の1割が留学体験を行っています。現地の家庭にホームステイしながら姉妹校に通います。修学旅行は韓国・ソウルへ行き、姉妹校との交流会でお互いのダンスを披露します。ボリビアやインド、カンボジアなどの国々へ、生徒・職員全員が子どもたちの学費を援助する海外教育援助基金ボランティアを行い、手紙や写真の交流で意識を高めています。

また、ここいながら「ドミニコ国内留学&イングリッシュキャンプ」で外国生活を味わうこともできます。英語だけの授業や寮で寝泊りして楽しみながらの英語漬けキャンプです。

## 生徒一人ひとりがいきいきと 自分らしさを発揮できるような ステージづくり

ドミニコは生徒たちが自己肯定感をもてるような多くの企画に取り組んでいます。7月と3月に、被災地の岩手県大槌町のカリタスジャパン大槌ベースへ東日本大震災被災地復興支援ボランティアとして、それ

ドン・ボスコの教育と快活さは、南九州の田舎の小さな女子校でもしっかり生きています。その精神は「職員のミッション」に集約されています。

「私たちは、一人ひとりの生徒が愛されているという実感を持ち、自己の可能性を信じ、力を十分発揮できるよう、励まし助けながら、ドン・ボスコの『共にいる教育』を実践します。そのために本校の教育理念のもと、自らを高め、一致協力してすべての教育活動に全力を尽くします。」

## 聖ドミニコ女子修道会の「真理」と イエスのカリタス修道女会の「愛」を モットーとする教育理念

この学園は「真理」をモットーとする聖ドミニコ女子修道会が、みでのじょう都城市からの要請を受けて昭和44年に創立。その後、昭和63年に「愛」をモットーとするイエスのカリタス修道女会によって経営が引き継がれま

ぞれ十数名の生徒を派遣しました。

「わざわざ遠い所からありがとう！」と言われたときに、私のほうが元気をいただき、大槌町の方々は優しい方ばかりだなど思いました。きっと、大切な方を一瞬で失ってしまう恐ろしさを知っているからなのだと感じました。今回の活動で普通に過ごせるありがたみや、家族がいる幸せや感謝を今まで以上に感じられるようになりました。これからも自分にできることを探して復興につなげていきたいです。」（ボランティア参加者 中村真子）

これからも「共にいる」先生たちは、生徒たちが常に自分を高めつつ確かな知識や国際性を身につけ、周りに喜びと光をまくことのできる女性に成長していけるように支えていきます。

（文・写真 都城聖ドミニコ学園高等学校提供）



都城聖ドミニコ学園高等学校  
宮崎県都城市下長飯町 881  
www.mdominico.ac.jp



フィリピンの姉妹校にて





日南海岸での海の家合宿

ねばろ一会（遠歩大会）  
濱崎校長も一緒に!

一日の始まりは、朝の挨拶から

# 己を知り、 己に克て!

宮崎県宮崎市

日向学院中学校・高等学校



体育祭の一コマ



濱崎教校長と校庭でパチリ!

いることを大切に、昼休みには生徒たちとグラウンドでサッカーやバレーボールをする神父や先生たちの姿が見られます。放課後は部活動に励み、帰る時間にも校長が生徒たちと談笑しながら、「お疲れさん!」と挨拶をしています。

このように生徒たちは朝から夕方まで、先生がいつも共にいる生活を体験しています。この家庭的な雰囲気懐かしく思い、本校には卒業生がよく帰ってきます。

## Faccio io. Vado io. G精神

本校は毎月のミサや感謝の集い、慰霊祭、クリスマスの集いなど、多くの宗教行事があります。また、宗教活動の一環として、高校1・2年生の希望者を募り、近くにある「カリタスの園」の乳児院や老人ホームでボランティア活動を行っています。活動前には学校のチャペルで短い祈りをします。生徒たちは楽しみながらも多くのことを学んでいるようです。マザー・テレサの祈りにある「主よ、お望みでしたら、わたしをお使いください」という心を実践する機会になっています。

今年には特に「『させられる』から『する』教育へ」という目標を掲げて、何事にも自分から進んで行動する人を育てることを目指しています。Faccio io（私がやります）とVado io（私が行きます）というのは、サレジオ会に伝統的に伝わる言葉で

す。このFaccio ioという言葉が生徒たちの間に浸透しています。

## 音楽・文武両道

ドン・ボスコは「音楽のない学校は、魂の抜けた体のようなものだ」と言っていますが、チャッティ神父も音楽を心から大切にしていました。本校の音楽の時間には、教科書に載っている歌だけでなく、教会で歌われる聖歌も練習しています。聖歌の中には、本校の教員が作曲した歌もあります。その中でも「わたしをお使いください」は、全国のミッションスクールでも歌われているものです。年間の宗教行事で聖歌を歌うことにより、神を賛美し、感謝する心を育んでいます。

また、音楽だけでなく、本校は一人ひとりの文武両道を目指しています。そのため、中学では90%、高校では70%の生徒が部活動に参加しています。部活動をしなが、自分の目標に向かって頑張っています。大学進学に関しては「行ける大学」よりも、「行きたい大学」への進路指導を行っています。

日向学院は、一人ひとりの個性を尊重し、「己を知り、己に克て」というチャッティ神父の遺したモットーを大切に、将来に向かって生徒と先生が共に歩んでいく学校です。

（文・写真／日向学院中学校・高等学校提供）



日向学院中学校・高等学校

宮崎県宮崎市大和町 110  
www.hyugagakuin.ac.jp



文化祭でのギター演奏



ドン・ボスコ記念ミサ

宮崎はサレジオ会が日本で最初に宣教活動を開始した場所、ここから日本のサレジオ会の歴史がスタートしました。宣教団長のチャッティ神父は、1926年に8名のサレジオ会員と共に日本に派遣され、ここ宮崎にやってきました。33年に現在の日向学院の地に宮崎小神学校（神父や修道者を志願する者たちの学校）が建てられ、戦後の46年に誕生したのが日向中学校でした。48年には日向高等学校が創立され、宮崎県において中高一貫教育の先駆けとなりました。

## 生徒も教師も一緒に

本校の特徴は、生徒と先生の距離が近いことです。初代校長チャッティ神父は、日本のドン・ボスコといえる素晴らしい人格者でした。教え子の誰もが、チャッティ神父から自分が一番大切にされたと感じていました。チャッティ神父の生徒一人ひとりを大切にしようという精神は、創立以来67年経った今でも受け継がれています。

朝早くから校長をはじめ教員たちが校門に立ち、登校する生徒たちを迎えます。朝礼では週に2回、「朝の心」と呼んでいる訓話を放送します。週に1度、学年ごとに宗教あるいは人間学の授業があり、生徒に心の糧を与えています。

各階に学年室が設けられ、授業だけでなく、休み時間や放課後も生徒のそばに





# ありがとう！秋元神父 いつも喜んで 人びとのために 働いた司祭

サレジオ会の最初の日本人司祭、秋元保夫神父が 2012 年 8 月 28 日、98 歳で天に召された。イエスのみ旨に自分自身を明け渡し、いつも喜んで人びとのためにタレントをささげた牧者だった。



## ● ドン・ボスコに強くひかれて

秋元神父は 1913 年 11 月 11 日、東京生まれ。祖父母の代からカトリック信者だったが、自分に司祭職の召命があるとは思っていなかった。「私は生まれつき気が小さく、視力も弱く、頭もよくない上に消極的で体力が人より劣っているという賜物をもっていました」（叙階 50 周年記念誌）、また「一見、無謀とも思える決意が出来たのは、自分にとって本当に不思議と思われた……これが、主の愛の力、聖霊の恩恵で無くて何でしょうか」とふり返っている。秋元神父は主に明け渡す素直さによって、主の呼びかけに応えた。

20 歳で上智大学に入学し、学業やボランティア活動にいそんでいた頃、チマッティ神父の創刊した「ドン・ボスコ」誌を読んでドン・ボスコに強くひかれ、東京に来たばかりのサレジオ会と出会う。その後、宮崎志願院に入り、1935 年 12 月 29 日に開設されたばかりの修練院に入り、翌年 12 月 29 日、初誓願を宣立。極度の近視のため兵役を免れた秋元神学生は、戦時中、国策により重要な責任から降りなければならなかった外国人宣教師に代わって帝都育英工業学校（現サレジオ高専）の理事長を務めるなど、重責を担った。

## ● 人との間に壁を作らない

1944 年 3 月 25 日、聖母マリアのお告げの祭日に、秋元神父は戦地に散った仲間の犠牲を胸に司祭叙階の恵みを受けた。この日を待ち焦がれたチマッティ管区長は、たいへんな喜びようだったという。

このときチマッティ神父から贈られた言葉を、



マルチノ 秋元 保夫

サレジオ会司祭。1913 年東京・四谷生まれ。1944 年司祭叙階。育英工業学校（現サレジオ高専）理事長を務め、1948 年から 50 年以上にわたり司牧者、聴罪司祭として働く。2012 年 8 月、98 歳で帰天。

（文／サレジオ会）

明朗快活、単純素朴な秋元神父は、「Faccio di」（喜んでやります）の精神で人びとのためにタレントをささげた。人との間に壁を作らないその人柄から、神父は私たちにたくさん思い出を残してくれた。旅行記『イタリアの空の下』にしたためられた感動の旅、祝いの席でのねじり鉢巻、着物にたすきがけ姿で歌い踊ってくれた「出船の港」、胃腸に良いと耳にして青蛙を丸呑みにした伝説。

ドン・ボスコを愛し、チマッティ神父を慈父と慕った秋元神父さま、あなたから受け継いだ尊い宝を大切に、神さまの愛を人びとに運ぶことができるよう、どうぞお祈りください。

秋元神父は生涯大切にした。「愛するマルチノ神父様、目指してきたゴールが見えてきました。ますますイエスに近づくように努めなさい。思い、言葉、行いにおいて、完全なものとなる努力において、イエスの聖なるみ旨に全面的に自分を明け渡しなさい。」

秋元神父は宮崎教会、大分教会、杵築教会、別府教会、下井草教会で司牧者として働き、病人を大事にし、聴罪司祭として慕われた。2003 年にサレジオ・ハウスへ移るまで、特にイエスのカリタス修道女会本部の聴罪司祭を務めた。

## 言いつきますけど…



今回の「言いつきますけど」人

松本 美恵子（サレジオンシスターズ修道女）

## チャレンジ！

自分の生き方を見つけ、  
明るく元気に希望の灯をともしよう！

私たちは知らないうちに誰かを支え、誰かに支えられています。さりげないひとことに励まされ、癒やされ、勇気づけられます。ぼつと心に灯がともり、幸せな気分になります。幸せは「仕合わせ」とも書き、もとの意味は「出会つべきものに会つ」ことです。それは一人ひとりそれぞれの生き方に合うものに出会つことです。

「仕合わせ」になるためには、「自分が何を求めているのか」知らなければなりません。どんな人間になりたい？ 夢は何？ どんな人と一緒にいたい？ すべて分解していくと、一番

ひつたりな生き方が見えてきます。断片的なヒントを手がかりに、他者の影響と自分の生き方が「仕合わせた」とき、自分だけの「仕合わせ」と出会います。自分をまるまる信じられるなら、エネルギーが湧き出て、他者に開かれていきます。他者との関わりは時として困難も付きまといますが、苦勞すればするほど、より強く、より深く、より善くなつて、神にいつそう近づきます。心の持ち方次第ですばらしい人生が開けます。祈り、信じること、託すこと、人を思いやる心、慈しむ心、互いに気遣うこと。他者との関係のなか



扶助者聖マリアの会（ADMA）の集いにて（サレジオ会管区長館にて）

日々に、いつも寄り添ってくださいますように。

松本 美恵子 まつもと みえこ  
サレジオン・シスターズ修道女  
星美学園短期大学・CMP センター長





ドン・ボスコとグリージョ

# ドン・ボスコの仲間とFBでつながろう!

## Contents

サレジオ家族の学校・施設・教会からの便り  
イベントのお知らせ・報告  
サレジオのつぶやきリレー  
読者からの投稿  
Mickey 神父のマジックショー  
おすすめの本・聖書の言葉  
そのほか盛りだくさん!

Come on,  
Let's join us!



ときどき  
ドン・ボスコくんからの  
メッセージが届くよ!  
お楽しみに!!

Myウォールでの  
閲覧画面(イメージ)



フェイスブック  
フェイスブック  
ドン・ボスコを知る仲間たちの集まる場所がFacebookにできました!  
サレジオ家族の学校や仲間たちのニュースが盛りだくさん!  
ぜひあなたも いいね! をクリックしてドン・ボスコの仲間とつながろう!

## あなたもドン・ボスコの風FBページに投稿してみよう!

画面イメージはパソコンの場合。  
スマートフォンでも利用できます。

### ① フェイスブックに登録しよう

登録なしでも一部閲覧はできます。



### ② 「ドン・ボスコの風fb」で検索

一番上に表示されます。



### ③ いいね! をクリック!

これで、  
あなたの  
ウォールに自動表示されます。



④ 気に入った記事があったら、  
「いいね!」「コメントする」  
「シェア」をクリック!  
自動で友達に紹介できるよ!

### ⑤ 投稿してみよう!

写真と短い文で、  
ドン・ボスコ関連のニュースをみんなに紹介しよう!



管理運営: サレジオ会日本管区 広報委員会 パナーイメージイラスト: Mariko Omura

記念イベント・コンテストのお知らせ

2015年8月16日は  
ドン・ボスコの  
200回目の誕生日!

# Don Bosco 200th Birthday

ドン・ボスコ生誕200周年を  
みんなで盛大にお祝いしよう!

## イベント1 「みんなで描こう!ドン・ボスコ」

きみにとってのドン・ボスコは、どんな人?  
もしきみがドン・ボスコといっしょにいたら、  
どんなふうにすごしたい?  
きみがドン・ボスコといっしょにつくる未来、  
それはどんな夢?  
きみにとってのドン・ボスコの姿を、  
自由に絵に描いてみよう!

ドン・ボスコの本を読んだり、  
映画を見たりすると参考になるよ



## イベント3 「みんなで着よう!ドン・ボスコTシャツ」

「ドン・ボスコが大好き!」  
そんな気持ちを仲間たちと共有するために、  
おそろいのTシャツを着るとしたら、  
どんなデザインを着てみたい?  
きみにとって、かっこよくて、ステキで、  
ワクワクするような、みんなで着てみたい  
ドン・ボスコTシャツのデザインを描いてみよう!



## イベント2 「みんなで歌おう!ドン・ボスコ」

ドン・ボスコの歌を、  
お気に入りのスタイルで自由に表現してみよう!  
仲間といっしょに歌ったり、  
ダンスの振り付けをつけて踊ったり。  
ダンスの振り付けをつけて踊ったり。  
ショートフィルム仕立てにしてもよし、  
1人で熱唱してもよし。  
ビデオに録画して、みんなの歌で響きあおう!  
(録音のみでもOK)



チャレンジには3つのコースがあります。

### 【A・道標コース】

ドン・ボスコ生誕200周年テーマソング「道標(みちしるべ)」を、  
自由に演奏・表現した動画を投稿しよう。

### 【B・おなじみコース】

これまでのドン・ボスコの歌を、自由に演奏・表現した動画を投稿しよう。

### 【C・新曲コース】

新しいドン・ボスコの歌を作詞・作曲して、演奏・表現した動画を投稿しよう。

★A・Bコースの楽譜と演奏サンプルはサレジオ会日本管区ホームページ内  
「ドン・ボスコ生誕200周年」コーナーに掲載しています。

・イベント①②③の応募作品は、2014年5月から順次、  
サレジオ会日本管区ホームページ内の特設コーナー等に展示・公開されます。  
・賞品: 優秀作品には、ドン・ボスコ記念オリジナルグッズと図書券が贈られます。  
(最優秀賞、優秀賞、佳作ほか)  
・応募資格: だれでも参加できます(年齢制限なし)  
・応募方法・応募先など、詳しくはサレジオ会日本管区ホームページ内  
「ドン・ボスコ生誕200周年」コーナーをご覧ください。



・主催: サレジオ会日本管区 共催: サレジオ家族  
・お問い合わせ: ドン・ボスコ生誕200周年準備委員会  
E-mail: db200@salesians.jp

## ★ 生誕200周年イベントのアイデア募集 ★

ドン・ボスコの200回目の誕生日を、みんなで盛大にお祝いしましょう!  
ドン・ボスコが喜んでくれるプレゼントを考えて、届けませんか?  
教会や学校、同窓会、サレジオ家族全体で、  
やってみたいイベントのアイデアを募集しています。  
すでに企画中のものもあわせて、ぜひ情報をお寄せください!



送付先: 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12 サレジオ会管区長館内  
「ドン・ボスコ生誕200周年準備委員会」 E-mail: db200@salesians.jp  
Facebook「ドン・ボスコの風」 www.facebook.com/dbnokaze

上記すべてのイベントの応募要項など、詳しくは  
サレジオ会日本管区ホームページ(salesians.jp)内「ドン・ボスコ生誕200周年」コーナーをご覧ください。

ドン・ボスコの風



# PRESENT

ドン・ボスコの風  
読者プレゼント

## 応募方法:

お名前(フルネーム)・住所・年齢・ご職業とご希望のプレゼント(A・B・C)いずれか一つを明記し、本誌のご感想・ご要望をお書き添えの上、Eメールまたはハガキで下記宛先までお送りください。

## 【Eメールの場合】

DB-no-kaze@donboscojp.org

## 【ハガキの場合】

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-9-7 ドン・ボスコ社内

「ドン・ボスコの風」編集事務局

応募締切: 2013年9月30日消印有効

当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。  
ご応募いただいたお客様の個人情報は賞品の発送のみに使用し、その他には一切使用致しません。

## A DVD マリア・マザレロ しあわせな家



ドン・ボスコと共にサレジアン・シスターズを創立したマリア・マザレロ。神の愛に生き、青少年教育に尽力した修道女の物語。

サレジアン・シスターズ  
企画・制作  
日本語吹替版 103分

5名様

## B 気合の入った キリスト教入門I 根本問題をつかめ!



黙想指導や教理指導のエキスパートが、「キリスト教とは何か?」「人間とは何か?」を現代日本の状況に即してとことん語り、どんどん読めるキリスト教入門書。

来住英俊著  
新書判並製 213頁

5名様

## C マリアの おはなし



イエスといっしょに、愛する神さまと人びとのためにおさげしたイエスの母マリアの生涯を、優しくあふれるイラストで。

マイテ・ロッシュ絵と文  
竹下節子訳  
257×227mm上製 39頁

5名様

(いずれもドン・ボスコ社提供 www.donboscosha.com)

次号No.12は2014年1月発行予定です。「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ <http://salesians.jp> でご覧いただけます。  
トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」

## 絵で見る はじめてのキリスト教 子どものためのカトリック入門

聖書の物語、カトリック教会の歴史、聖人たち、教会の教えなどが満載! 親しみやすい文章と豊富なイラストで、楽しく読めるキリスト教の入門書です。漢字はすべて振り仮名付きで、小さなお子さまと一緒に読みいただけます。

クリスティン・ベドッティ 作 ミシェル・デュボ 監修  
関谷義樹 日本語版監修 つばきうたこ 訳  
257×227mm上製 96頁 定価1,470円



## DVD VIDEO マリア マザレロ

～しあわせな家～

サレジアン・シスターズ企画・制作  
日本語吹替版 DVD 103分 定価1,000円



19世紀のイタリアで、ドン・ボスコと共にサレジアン・シスターズを創立したマリア・マザレロ。素朴な生活の中で、少女たちと共にいつも神さまを想い、愛と喜びに満たされて生きる。青少年教育にささげた修道女の生涯を、美しい映像と音楽で。

いつもよいものを——  
キリスト教書籍・聖具・聖品 **ドン・ボスコ社** ネットショップ  
www.donboscosha.com  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7 TEL. 03-3351-7041 FAX. 03-3351-5430

## from the Editor 編集後記

ドン・ボスコ生誕200周年を迎える準備期間として、ドン・ボスコの「生涯」、「教育」を知った私たちは、8月16日より第3年目「霊性(生き方)」を深める一年に入ります。サレジオ会会則第21条は、司祭ドン・ボスコについて「人間味豊かな彼は、自国民の特性を豊かに身に付け、地上の現実に関心を抱いていた。また、真に神の人であったドン・ボスコは、聖霊の賜物に満たされており、目に見えない方を見ているかのように生きていた」と表しています。現在の私たちにも実現できるその生き方を、本誌をとおして知り、体験してみませんか。(M)

## ドン・ボスコの風 No. 11

SALESIAN BULLETIN JAPAN July 2013  
2013年7月10日発行(年2回発行)

編集人 山野内 倫昭  
発行人 アルド・チブリアニ  
発行所 カトリック・サレジオ修道会  
「ドン・ボスコの風」編集事務局  
〒160-0004  
東京都新宿区四谷1-9-7  
ドン・ボスコ社内  
電話:03-3351-7041  
Fax:03-3351-7042  
Eメール:DB-no-kaze@donboscojp.org

編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社  
印刷所 日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。  
© カトリック・サレジオ修道会 2013

## Info

## お知らせ

### サレジアン・シスターズ 管区本部移転と新管区長就任

2013年5月、サレジアン・シスターズ(扶助者聖母会)の日本管区本部が東京都調布市に移転した。終戦直後の1945年からこれまで、東京都北区の星美学園と同じ敷地内にあったが、約70年ぶりの移転となり、建物も4月に落成した。5月12日には管区本部の責任者である管区長も若松悠紀子シスターから井上澄子シスターにバトンタッチし、新体制で始動した。

写真で、新管区長の井上シスターが



新管区長の井上澄子シスター(中央)



新設された管区本部の建物

手にしている扶助者聖マリアのご像は、1929年、最初の宣教女が来日した時にイタリアからもってきたもので、代々、管区長に手渡し、受け継がれているもの。

### サレジオ会が町田修道院を開設

2013年4月、サレジオ会日本管区の14番目の支部となる町田支部が、東京都町田市に開設された。修道院には4人のサレジオ会員が所属し、全員が隣接するサレジオ高専に勤務し、司牧に務めている。



サレジオ高専に隣接する町田支部

### サレジアニ・コオペラトリ 九州地区入会式

2013年6月1・2日、長崎市内にあるイエズス会立山修道院黙想の家にて、サレジアニ・コオペラトリ(協力者会)の九州地区黙想会が行われた。溝部脩司司教の指導のもと、40人ほどが集まり、2日には、サレジオ会日本管区長のチブリアニ神父主司式によるキリストの聖体の祭日ミサのなかで、4人の新会員が誕生、厳かでもあり家庭

的な雰囲気にも包まれた式となった。サレジアニ・コオペラトリは、ドン・ボスコによって創立され、サレジオ会などの指導を受けながら協働者として生きる一般信徒の会である。



チブリアニ管区長、溝部司教、新会員とともに

### イエスのカリタス修道女会 スモールクワイア被災地へ

2013年6月14・16日、イエスのカリタス修道女会のシスターたちによるスモールクワイアが、被災地でのコンサートを行った。昨年のクリスマス以来の訪問で、短い日程だったが、宮城県石巻・志津川・米川、岩手県大船渡で計6回にわたり開催。コンサート後、充分に交流を深め、多くの出会いに恵まれた。商店街では、初めてのオープンスペースでの公演となったが、マイクや拡声器をとおして、福音のメッセージが響き渡った。素通りする人、立ち止まり去っていく人、腰を据え最後まで

で熱心に耳を傾ける人などさまざまだったが、大自然のなかで、主イエスを賛美しつつ、被災地の復興を祈りながら心をこめて歌った。

\*\*\*



スモールクワイアによる歌



CDには「いのち」他、8曲を収録

2013年6月25日、同会会員である古木涼子シスターによる「まだ見えなくても あなたの道は必ずある」(青春出版社)が出版された。古木シスターは今や各地で歌われている「いのち」を作詞・作曲。歌が紡いだ感動の物語や生きることへ光を照らすメッセージが綴られている。「いのち」他、8曲が収録されたCD付き。お求めは、全国書店またはドン・ボスコ社へ。





## 教皇フランシスコ、 信頼と尊敬と真心をこめて、 お迎えします。

私たちの新教皇は、フランシスコという名前を選ばれました。このことは、聖フランシスコのような単純素朴さと清貧を大切にする新教皇の生き方を表すと同時に、教皇職の役割とは何かをよく表しています。

私たちはドン・ボスコがそうしたに違いないように、信頼と、尊敬と、真心をこめて、教皇フランシスコを喜んでお迎えしましょう。そして教皇のために、扶助者聖マリアの母としての計らいと導きを祈り求めましょう。

私たちの愛情と従順をもって、私たちは心から協力することを、教皇にお約束します。

サレジオ会総長

パスクアル・チャーベス神父

2013年3月 新教皇選出にあたって

## Message from Rector Major

サレジオ会総長メッセージ



2013年3月、バチカンにて教皇フランシスコとチャーベス総長（中央）、プレゴリン副総長（右）。  
教皇は扶助者聖マリアのご像にすぐに口づけを贈られた。